

掛川の木でつくる、地域の風景をつくる。

# 時ノ寿 木組みの家

## 掛川協働方式

時ノ寿木組みの家は、建築主+設計者+木材コーディネーター+職人が協働してつくる「掛川協働方式」で住まいをつくり、住まいを守ります。

住まいづくりの品質で大切なことは、地域の気候風土を知り、地域固有の住まいの素材や使い方を熟知し、地域の素材を活かす匠の技です。「時ノ寿木組みの家」のよりどころである木組みも、木の癖をよみ、木を活かす大工職の存在なくして成り立ちません。

一方、住まいに自然を取り戻す手仕事の代表に左官があります。左官の仕事は、自然素材の組み合わせ、自然環境（日、風、雨、湿気、気温）の把握とつきあい方、施工手順や時間のコントロールなど、経験と工夫の塩梅あんばいが全てを決定します。石の引き方ひとつ、屋根の葺き方ひとつに至るまで、深い知識と熟練を要するからこそ、彼らを匠と呼ぶのです。大工職、左官職、板金職、建具職に至るまで、住まいづくりのさまざまな工程の中において、それぞれの技を誇る匠が質の高い住まいづくりを支えています。さらに時ノ寿木組みの家は、日本住宅性能表示基準の内容に基づいて定められた「長期優良住宅」の構造性能、温熱環境性能、劣化対策性能、維持管理性能を十分に満たした確かな性能を持つ住まいを提供します。



# 掛川協働方式

## 価値をつくり、持続させる住まいづくりの体制

「掛川協働方式」は、古人の残した諺“人は道によって賢し”に従い、木材コーディネーター、設計者、大工職、左官職、板金職、建具職など地域の職人が共に協働することで、記憶に残る住まいづくりを目指しています。設計者が、建築主の翻訳者として、職人のコーディネート役となり、つくり手全員が地域プロデューサーとしての自覚を持つ集団として取り組んでいます。地域の知恵と技術を継承し、人や材料を循環させ、地域の風景を残し、守ることは地域の財産であると私たちは考えます。

